千葉市日中友好協会　　第２２号
2024 年 9 月 26 日

活動ニュース

発行　千葉市日中友好協会
編集責任者　布施貴良
事務局　千葉市美浜区高洲 3-4-12-101
電話 043-277-1212　FAX 043-278-9966
E-Mail：m-fuse@mvh.biglobe.ne.jp

二度とあってはならない深圳の児童殺害事件について

9月18日、中国広東省深圳市で、日本人学校へ通学中の小学生が同行中の母親の目の前で男に刺殺される事件が発生しました。3 か月前にも江蘇省蘇州市で日本人学校の児童が襲われる事件があったばかりです。
いたいけな抵抗のできない子供を狙った暴力行為は、どの国でもどこの地域であっても卑劣であり絶対に許し難い行為です。私たちとしても、中国当局には再発防止策の徹底を求めたいと思います。同時に、日本国内においてはこのことをもって、不確かな情報を流す等日中友好の重要性を損なう言動を慎むべきです。

今回、事件の犠牲になった児童の父親の「手記」を、関係者の了解を得て裏面に掲載いたしました。父親は、子供を殺害された悲しみを、「最愛の息子への償いとして、また犯人への復讐として、日中相互理解に微力ながら貢献し続けることだけです」と綴っています。私たち日中友好を進めるものとしては、その父親の思いをしっかりと胸に刻み込んで、取り組んでいかなければならないと思います。

是非、児童の父親小山純平さんの手記をお読みください。

「再会長江」上映会開催

9月 6 日映画「再会長江」の千葉県日中友好協会主催上映会が、千葉市中央区の千葉劇場で行われました。上映に先立ち、石橋清孝県日中会長の挨拶があり、同映画の監督で千葉県出身の竹内亮氏のビデオメッセージが披露されました。また、同映画館での上映に尽力いただいた県日中会員臼井正一参議院議員のお祝いのメッセージも披露されました。約 60 人の会員が参加し、雄大な長江の沿岸の開発状況、変化に富む流れ、少数民族の女性との感動的な「再会」、そして 5,000 メートルの高地の源流部にある氷河の一滴が、あの長大な長江の源であることが映し出されました。古代から現代に至るまで、多くの民族が行き交い文明を育み、中国の発展を支えてきた大河長江の、雄大な流れを映す映像に引き込まれ、河口の大都市上海からチベット高原の源流部まで、まさに自ら旅をしているかの感覚で映像に引き込まれました。

【日中友好推進に向け国会議員団の訪中相次ぐ】

海江田万里衆議院副議長一行が北京訪問

7 月 22 日、海江田万里衆議院副議長一行が北京を訪問し、趙楽際全人代常務委員長、肖捷同副委員長と会談。「日中議会交流委員会」の早期再開に向けた話し合いが行われました。

「日中友好議連」5 年ぶり訪中

自民党の二階俊博元幹事長が会長を務める「日中友好議員連盟」訪中団が、8 月 27 日北京を訪問。訪中団は 28 日、北京の人民大会堂で中国共産党序列 3 位の趙楽際・全国人民代表大会（全人代）常務委員長と会談、二階氏らは 28 日夜、王毅共産党政治局員兼外相とも面会した。

「立憲民主党訪中団」

岡田克也幹事長等 4 名の代表団が北京を訪れ、中国共産党中央対外連絡部劉建超部長(閣僚級)他共産党幹部と交流し、党間交流や懸案の日中問題を話し合い、

本稿は、「自主・平和・民主のための国民連合」事務局長山本正治氏の了解を得て掲載しました。

深圳刺殺事件で犠牲になった男児の父親の手記

以下は、広範な国民連合全国事務局と中国華語シンクタンクが共同で運営する「日中時事交流フォーム」事務局で頑張ってくれている王景賢さんの Facebook への投稿である。

心よりお悔やみを申し上げます🙏🙏🙏
文は被害者少年航平の父親小山純平さんより:以下は私による翻訳文
『航平は日本人であり、中国人でもあります』
力石さん、古谷さん:
昨日は遅くまでありがとうございました。 領事館のこと、会社のことをどうおっしゃるかはあなた次第です。 それでも、私の気持ちをわかっていただければと思い、この手紙を書きました。 私の感情を整理するためという意味もあるかもしれませんが、うまく書けていない部分もあると思いますが、ご容赦ください。 転送するかどうか、誰に転送するかは、ご自由にお決めください。航平は昆虫や爬虫類が大好きで、どんな小さな生き物にも目がない、独特な視覚を持つ子供でした。 誰よりも優しい心の持ち主です。 幼い頃から絵を描くのが好きで、日本語と中国語の両方に堪能な語学の才能もありました。 彼は私と一緒に深圳に行くことをためらっていました。 食べ物にうるさい彼は、最初は現地の食事にはなじめなかったが、最近はだいぶ好きな食べ物が多くになり、始めたばかりのバスケットボールにも夢中になっています。

航平が突然私たちの元を去ったことには、私はまったく心の準備ができていない今、心は混乱と果てしない悲しみでいっぱいです。 彼がどのように成長し、大人になっていくのか、もう見ることができません。 彼を守れなかったことは、一生釈然のできない後悔になるでしょう。航平は日本人であり、中国人でもあります。 母親は 10 年近く日本で暮らした中国人であり、父親は人生の半分近くを中国で過ごした日本人です。 航平自身も、3 歳までの人生のほとんどを中国の家で過ごしました。 何が報道されようと、彼が日本人と中国人の両方のルーツを持つという事実は変わらない。私たちは中国を憎んでいるわけではないし、同様に日本を憎んでいるわけでもない。

国籍に関係なく、私たちはどちらの国も自分の国だと思っています。 習慣や文化の違いはあっても、私たちはみな同じ人間であることを誰よりもよく知っています。 したがって、歪んだ考えを持つごく少数の卑劣な人間の犯罪によって、両国の関係が損なわれることを私は望みません。 私の唯一の願いは、このような悲劇が繰り返されないことです。航平は以前、私にこう言いました。『将来は父のようになりたい 』と。単なる気まぐれだったのかもしれませんが、父親として、その言葉は私を大いに慰めました。 私は日中貿易に携わり、日本と中国の架け橋となっています。 私の主な仕事は、両者の間にある認識の違いを埋め、円滑なコミュニケーションを図ることです。 もしこのような不幸な事件が起こらなければ、彼はきっと私よりも役に立つ人間になっていたことでしょう。 しかし今、私にできることは、彼が誇れる人間になること、そして最愛の息子への償いとして、また犯人への復讐として、日中間の相互理解に微力ながら貢献し続けることだけです。そして何より、航平に感謝の気持ちを伝えたい。 私たちを両親にしてくれたこと、そして私たちのそばで 10 年 8 カ月と 7 日間を過ごしてくれたことに感謝します。 私たちはこれからも、航平の分まで強く生き、航平のやり残した道を歩み続けます。

小山純平